

項目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築		NO	2-9
事業名	自然環境学習推進事業			
事業費	1,689 千円	担当部局課	環境エネルギー部 みどり自然課	

1 目的

- ① 学校林環境学習指導者研修を開催し学校教育における森林環境学習を推進する。
- ② 副教材や野外活動の手引き等の提供を通じた、小学生等の森林や自然環境に対する理解の向上を図る。

2 事業概要

- ① 学校林環境学習指導者研修の実施
 - ・ 学校における森林環境学習の推進を図るため、教職員やPTA等を対象に、学校林の安全な学習環境の整備と森林環境学習を内容とする研修を各地域で行う。
 - ・ 学校林環境学習指導者研修の実施・・・通年
- ② 森林環境学習に必要な副教材等の作成と提供
 - ・ 森林環境学習を実践するための副教材の作成と提供。

3 成果と課題

【実施状況】

- ① 学校関係者と連携し、学校林において環境学習推進指導者研修を実施している。
- ② 副教材及びガイドブックを印刷、配布し、学校教育等において活用してもらう。

副教材「やまがたの森林」、指導者用ガイドブック「やまがたの森林」解説編
 小学校5年生の社会科の授業等で活用できるようにするため、森林と人とのかかわりや森林の働き、身近にある森林として各地域の森林を紹介。

- ・ 副教材11,700部、ガイドブック1,300部を作成し、小学校5年生の全児童及び担当教諭等に配布した（8月）

※ ポケット版「森のたんけん手帳」

平成25年度作成。子供たちが森林に入って野外活動を実施する際の留意点や、五感を使って森林に親しむ遊び等をわかりやすく紹介。

- ・ 各みどりの少年団、4つの県民の森、各市町村、森林研究研修センター各総合支庁森林整備課、5つの少年自然の家等に配布した

（平成26年4月～平成27年1月）

【課題・対応】

副教材等は活用状況のアンケートを実施し、活用をさらに促していくための適正な印刷、配布時期等を検討する。

やまがた緑環境税を活用した取組み

【平成26年度自然環境学習推進事業の取組事例】

学校林環境学習推進指導者研修（鮭川・鮭川小）

◆開催日 6月25日から11月6日まで4回開催

◆場 所 鮭川村大字京塚・鮭川小学校校林 ほか

◆対 象 鮭川小教諭12名（全学年児童187名）

学校林環境学習推進指導者研修（村山・富本小）

◆開催日 6月24日から10月22日 5回開催

◆場 所 村山市立富本小学校周辺の森林

◆対 象 富本小教諭7名（1・2・4・6年児童49名）

○学校林の学習環境の整備と整備された学校林を活用しての森林環境学習の実践



学校林でスギの枝打ち（鮭川小）



校庭樹の身体測定と記録（鮭川小）



切った枝でバードコール作り（鮭川小）



学校林の間伐を実施（鮭川小）



平成26年度山形県学校林環境学習推進事業
森林研究研修センター作成
オリジナル教材の作成（富本小）



散策路図鑑と同じ葉っぱを探す（富本小）



スギ間伐材で表札作り（富本小）



紅葉スタンドグラス（富本小）

副教材「やまがたの森林」・指導者用ガイドブック・ポケット版「森のたんけん手帳」
作成・配布

（副教材・ガイドブック）

（森のたんけん手帳）



項目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築	NO	2-10-1
----	------------------------	----	--------

事業名	村山版森のようちえん拡大支援事業		
事業費	522 千円	担当部局課	村山総合支庁 森林整備課

1 目的

幼児の自然体験を通じた、子どもの健やかな成長への寄与と、森林等の自然環境に対する意識を養う環境学習の推進。

2 事業概要

① 中核施設への支援

- ・ 地域の中核となり、先導的に村山版森のようちえんを実践する施設の育成
- ・ 施設の取組みにより、普及・定着を図る。

中核施設 : 寒河江第二幼稚園、上山あい保育園

実施期日及び場所 : 第1回 8月11日(月) 寒河江市いこいの森
第2回 10月17日(金) 県民の森

② 村山版森のようちえん活動発表大会の開催

- ・ 活動事例の紹介
- ・ 取組みの普及拡大を図る。

開催期日及び場所 : 2月28日(土) 遊学館ホール

参加者 : 70名(保育園・幼稚園、森林関係団体等)

③ 村山版森のようちえん検討委員会の開催

- ・ 実践課題の抽出及び解決方法の検討
- ・ 普及拡大策等の検討
- ・ 中核施設等への指導助言

検討委員会の開催 : 6月19日、9月17日、12月9日、3月17日

3 成果と課題

【成果】

- ・ 「村山版森のようちえん」の普及に向けた人材を育成した。
- ・ 保育者や保護者が自然体験活動の「村山版森のようちえん」の有効性を認識した。
- ・ 来年度は中核施設を中心とした任意団体が結成される見込みであり、施設独自の取組みによる活動の発展と普及が期待される。

【課題・対応】

- ・ 今後も参加者意識や関係者の要望を踏まえながら、環境教育の普及・促進に向けた取組みを実施していきたい。

やまがた緑環境税を活用した取組み

【平成 26 年度村山版森のようちえん拡大支援事業の取組事例】

○中核施設への支援



第 1 回森のようちえん実施状況



第 2 回森のようちえん実施状況

○検討委員会



指導者研修の様子



第 1 回検討委員会の様子

○活動発表大会



活動発表大会の様子



活動発表大会の様子

幼児の自然体験を通じた、子どもの健やかな成長と森林等の自然環境に対する意識を養う環境学習の推進を図るため、2箇所の中核施設への年2回の支援、及び、年4回の検討委員会による指導助言、活動発表大会の開催により、施設独自の取組みによる活動が発展、普及した。

項 目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築	NO	2-10-2
-----	------------------------	----	--------

事業名	里山の森づくりサポーター育成事業		
事業費	127 千円	担当部局課	村山総合支庁 森林整備課

1 目 的

多様化する県民の森利用者の要望に対応できる体制を構築するため、施設内の案内及び体験活動などを支援する指導者（以下、森の案内人）を新たに募集し、森の案内に必要な知識・技能に関する研修会を開催した。

2 事業概要

県民の森の安全で、かつ、楽しい活動の支援・案内ができるスキルを習得するため、次の項目について学んだ。

- ①県民の森に関する知識
- ②森林活動の安全管理及び緊急時の応急手当て
- ③森の案内の基礎知識と実践スキル
- ④木エクラフト実習

3 成果と課題

【成果】

- ・ 山形市等周辺市町案内し、森づくり活動を実践したい家族連れや友人同士、学生など、多彩な県民が参加した。

今回の研修会を修了し、「県民の森」森の案内人として6名が登録された。

【課題・対応】

- ・ 「県民の森」の年間利用者は約15万人程度である。面積は、895haで私有林が殆どを占めており、一部に山形県有林、国有林、山形市有林、山辺町有林等の森林がある。樹種はスギの幼齢林が少なく、下刈り等の保育作業を行う場所が少ない。
- ・ 県民の森地内で森林案内や木エクラフトを教える「森の案内人」を養成したが、全体的に高齢化が進んでいるため若い森の案内人を養成する必要がある。

やまがた緑環境税を活用した取組み

【平成 26 年度里山の森づくりサポーター育成事業の取組事例】

里山の森づくりサポーター育成事業

研修内容：県民の森に関する知識



研修内容：安全管理・応急手当



日時：平成 26 年 5 月 31 日（土）

場所：山辺町畑谷地内 県民の森



研修内容：森林案内の基礎知識

研修内容：木工クラフト

日時：平成 26 年 6 月 1 日（日）場所：山辺町畑谷地内 県民の森

多様化する県民の森利用者の要望に対応できる体制を構築し、施設内の案内及び体験活動などを支援する指導者「県民の森・森の案内人」を新たに養成するため、森の案内に必要な知識・技能に関する研修会を2日間開催したところ、山形市等周辺市町から森づくり活動を実践したい、家族連れや友人、学生などの参加があり、研修の結果6名の新たな「森の案内人」が誕生した。

項目	21世紀にふさわしい県民と森林の関わり構築	NO	2-10-3
----	-----------------------	----	--------

事業名	最上の自然環境教育マスター養成事業		
事業費	396 千円	担当部局課	最上総合支庁 森林整備課

1 目的

- ① 多様化する自然環境教育活動の指導者の養成
- ② 若年層の人材育成による指導者層の充実
- ③ 高齢者の経験と智恵を活かし、次世代に引き継ぐ担い手の育成

2 事業概要

① 「養成講座」の開催

- ・ 春、秋、冬の年3回。春、秋は各2日、冬は1日の講座を開催した。
場所：山形県遊学の森(金山町)
受講者：春の部19名、秋の部21名、冬の部20名
対象者：一般県民で自然環境教育に関心がある方
- ・ 養成講座終了後に、自然環境教育マスターとしての自覚を促すため「森のマスター養成講座終了証」を発行するとともに（冬の部は除く）、今後の活動につなげるため「遊学の森“森の案内人”」への登録を依頼する。
- ・ 登録者には、遊学の森等で開催される自然環境教育、森づくり活動の案内や情報の提供を行っていく。

② 養成講座に関する普及啓発の実施

- ・ チラシ等による普及啓発
養成講座の開催趣旨と講座の内容についてチラシ等により一般県民に広くPRし、多くの方々から養成講座に参加していただくための周知を図る。
- ・ みどり環境公募事業実施団体等への周知
各団体の指導者も高齢化していることから、団体の構成員に当講座への参加をPRし、活動運営の活性化なども目的に普及啓発を行う。また、次世代の指導者を目指す学生などにも積極的に周知を図っている。

3 成果と課題

① 成果

- ・ 参加者のうち、新たに5名の方が遊学の森「森の案内人」として登録され、指導者は着実に増加している。
- ・ 今年度から開催した冬の部には20名の参加があり、冬の森の指導者養成についても一定の成果があった。

② 課題

- ・ 春、秋の部は土日2日間の開催であるが、1日しか休みの取れない参加者もいることから、次年度以降は単位制として年間を通して2日間の受講で修了証を出すようにできないか検討する。
- ・ 冬の部は今年度からの試みであったことから、アンケート結果をもとに今後のカリキュラムについて検討していく。

やまがた緑環境税を活用した取組み

【最上の自然環境教育マスター養成事業の取組事例】



【春の部】自然と人との関わり



【春の部】自然の理解（野生動物）



【秋の部】森を巡るガイド講座



【秋の部】楽しい自然を知る



【冬の部】雪の性質や特徴



【冬の部】冬の里山観察指導方法

自然環境教育指導者を養成する講座を、春（5月）、秋（11月）、冬（2月）の3回開催した。各回20名程の参加者があり、春と秋の部では、樹木や野鳥などの基礎講座やネイチャーゲームの活用方法などについて、今年度初めて開催した冬の部では、雪の基本的な性質や冬の森での観察指導方法について学んだ。 【遊学の森（金山町）】